



日本学術振興会バンコク研究連絡センター

活動報告(2011 年 7 月～9 月)

バンコクの風 ลมจากกรุงเทพฯ



7月に入り、バンコクでは現スタッフによるセンター運営がひと巡りしました。7月1日(金)、センター近くのレストランにて壮行会をかねた昼食会を開き、この先、オフィスの共用化に伴う移転も視野に入れ、これまで以上に果敢なセンター活動を行っていくことをスタッフ全員で確認しあいました。皆様におかれましては、今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

今回は、東南アジア・南アジアの JSPS 同窓会に作成を依頼し、当紙面に各国同窓会の紹介記事を掲載しております。JSPS Quarterly に寄稿の予定ではありますが、スペースの制約があるため、この機会に全文掲載いたします。合計すると会員数が 400 名を超える、当地域における JSPS の大きな資産です。ご一読ください。

タイでは北部で7月以来続いている豪雨により北部・中部広域で多くの洪水被害をもたらしています。すでに 350 名以上の死者を出しており、日系企業の被害については日本でも連日報道されているとおりです。10月25日現在、南下した水はバンコク都に至り市内にも浸水が見られます。

初動態勢の遅れなど激しい批判にさらされる新政権、排水経路の下流にあたる市内水路の開門に協力的でない都知事は来年に選挙を控え、あるいは、毎年繰り返される洪水被害への根本的な対策不足など、純粋に自然災害とは言いきれない側面も見え隠れし、過日、当センターが主催した社会科学を一つの目玉としたセミナーでの熱気は、こういった点にも由来しているのかも知れません。

■ 筑波大学国際系係長の来訪 ■

2011 年 7 月 4 日（月）、筑波大学より国際系の係長三名が当センターを来訪されました。

来訪者：

横瀬雅年 国際部留学生交流課短期留学係長

関本啓子 国際部留学生交流課留学生交流係長

山田涼子 体育芸術系支援室学生支援専門職員

筑波大学には教員および職員対象の公募型研修制度があるということで、今回はタイとシンガポールの大学における留学生の受入れ体制についての調査が目的だということです。



横瀬係長、センター長、山田専門職員、関本係長

タイでは、マヒドン大学（Mahidol University）の International Program の視察が主な用務です。

また、帰国後の留学生との連携として、筑波大学では中国に 3,000 人規模の同窓会があり、今後は、他国においても同様のネットワーク化を考えているとのこと。

なお、横瀬係長は、過去に当オフィスに勤務されていたということで、現副センター長から数えて 4 代前の副センター長にあたります。現副センター長としては先輩のご活躍に触れることができ、業務の励みとなりました。

<http://jsps-th.org/?p=1286>

■ 大阪大学 卯田事務職員の来訪 ■

2011 年 7 月 7 日（木）、大阪大学微生物病研究所 日本・タイ感染症共同研究センター（RCC-ERI: Thailand-Japan Research Collaboration Center on Emerging and Re-emerging Infections）の卯田健二事務職員に当オフィスを来訪いただきました。

RCC-ERI は、2005 年度に発足した文部科学省の「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」における海外研究拠点の一つとして、大阪大学がタイ王国保健省医科学局の協力により設置した研究拠点です。

最初の 5 年を経て、現在は 2 フェーズ目の 3 年目に入っているということ。バンコク郊外ノンタブリーの保健省内に施設を構え、現在、8 名ほどの日本人研究者が常駐する、日本の研究機関の在タイ施設としては大規模なものとなります。

今回は、当オフィスの最寄りにある大阪大学バンコク教育研究センターを訪れた卯田職員を引きとめ、こ



卯田職員、センター長

ちらに立ち寄っていただく形となりました。研究者目的でタイに滞在する際に取得するビザに関し、大所帯を担当しておられる卯田職員と、その扱い方や対応について意見交換を行いました。不透明な部分がある中で最善の策を模索する必要がある、当オフィスとしては今後もこうした情報共有を続けていきたいと思えます。<http://jsps-th.org/?p=1267>

■ タイ国内大学表敬訪問 マヒドン大学 ■

2011年7月8日（金）、当オフィスメンバー全員でマヒドン大学（Mahidol University）を表敬訪問しました。これは、当センターの2011年度（4月から翌年3月まで）計画の一つで、タイ国内で9つ認定されている研究型国立大学を表敬し、事業紹介をしようという一環です。これまでにカセサート大学、チュラロンコン大学、タマサート大学、キングモンクット工科大学を訪問しています。

マヒドン大学はタイのトップ大学のひとつで、2011年QSアジア大学ランキングでは、タイ国で1位の34位にランクインしています（2位はチュラロンコン大学の47位）。特に医学関係の充実で知られており、これまでにJSPS事業でも、拠点大学事業やアジア研究教育拠点事業、AA学術基盤形成事業を実施しているほか、JST-JICAの枠組みで行うSATREPSでも大阪大学とタイ保健省で実施するプロジェクトに参画しています。

今回は、長年マヒドン大学との共同研究・交流を続けられ、2009年にマヒドン大学より名誉博士号を授与された関達治大阪大学バンコク教育研究センター長にご協力をお願いし、Clin. Prof. Dr. Piyasakol Sakolsatayadorn 学長及び Prof. Dr. Sansanee Chaiyaroj 研究教育担当副学長にお会いすることができました。

センター長によるJSPS事業紹介の中では、過去から現在にかけてマヒドン大学での実施していたAcore事業やAA plat事業の代表者名が出されるなど、大学としての研究プロジェクトの管理意識の高さがうかがえました。

また、今回の表敬により明らかになったマヒドン大学の特徴としては、国内の他学に比べて博士号をもった教員の多さ（約70%）と、教員に占める欧米大学出身者の比率の高さがあります。これは大学ランキングも意識した採用条件としての博士号の所持、また学内の「Pure Culture」への警戒感によるところが大きいようです。部局によって差はあるものの、Prof. Dr. Sansanee 副学長が所属する理学部においては、マヒドン大学出身の教員はゼロに等しいということでした。



JSPS 事業、特に外国人特別研究員については、前述のとおり欧米大学出身者が多くを占めることから、多様な研究文化を経験し、また自らの研究費を持って研究をするという研究者養成という観点から非常に関



左から副センター長、Ms. Boonyarat 国際部長、センター長、Clin. Prof. Dr. Piyasakol 学長、Prof. Dr. Sansanee 副学長、関大阪大学バンコク教育研究センター長、当オフィススタッフ

心が高く、センター長が提案した若手研究者対象の事業紹介セミナー開催に対しては前向きな回答をいただきました。繁忙期にあたる 8 月を避け、7 月 29 日(金)の開催がその場で決定され、会場はバンコク中心部に位置する理学部となりました。

当オフィスとしては、今回も同窓会組織と連携し、マヒドン大学に所属する JSPS 事業経験者に協力を仰いで、事業紹介セミナーを実施する予定です。

<http://isps-th.org/?p=1273>

■ 柿原 理研シンガポール事務所長の来訪 ■

2011 年 7 月 12 日(火)、柿原健一郎 理化学研究所シンガポール事務所長が当オフィスを来訪されました。柿原所長にお越しいただくのはこれが 2 度目になります。今回はセンター長不在のため、副センター長が対応させていただきました。

柿原所長からは、特にシンガポールにおける大学運営の方針転換についてお話をいただきました。大学予算全体では増額となっている一方、研究者一人当たりのミニマムの研究費が減額され、競争的な資金が増えているということです。かつ、当該資金への獲得については民間企業との協働が条件とされるなど、急激な制度変更がなされており、研究者の入れ代りも起こり始めているとのこと。

この背景には様々ありますが、日本の科学技術総合会議にあたりともいえる研究・開発閣僚委員会 (MCRD : Ministerial Committee on Research and Development) が 2004 年に設置され、その事務局的な立場を担う国家研究基金 (NRF : National Research Foundation) にトニー・タン元副首相が就任するなど、政策面でのトップダウンの性格が強く関係していることは明確です。

なお、今年 8 月にはセンター長がシンガポールを訪



柿原所長、副センター長

れ、その際に理研オフィスにも立ち寄らせていただく予定であります。

当オフィスでは今後とも東南アジアの各日本機関とも連携を取り合っていきたいと思っております。

<http://jsps-th.org/?p=1293>

■ タマサート大学で事業説明会セミナーを開催 ■

2011 年 7 月 21 日（木）、タマサート大学ランシット・キャンパス（Thammasat University Rangsit Campus）にて、JSPS 事業説明会を開催しました。

これは 6 月 7 日の表敬訪問において Assoc. Prof. Dr. Taweep Chaisomphob 研究担当副学長より要請を受けたことにより実現したものです。センター長からの事業説明に加え、JSPS 事業経験者の体験談等を披露することで若手研究者の意欲を高めることを目的に、外国人特別研究員での日本滞在経験があり、タイ王国 JSPS 同窓会理事でもあるチュラロンコン大学の Assoc. Prof. Dr. Boonchai Techumnat にもご参加、ご協力いただくことにしました。

参加者は教員・研究者を中心に 40 名ほどで、タマサート大学からは、急用の Dr. Taweep 副学長に代わって、Assoc. Prof. Dr. Virote Boonyapinyo 総務担当理事補（Assistant to the Rector for General Administration Services）が出席し、ご挨拶をいただきました。

今回、一時帰国中のセンター長が台風 6 号の影響で渡タイできなくなったため、JSPS 事業紹介は副センター長が行いました。JSPS 事業への関心は非常に高く、特に、当オフィスの集計によるタイにおける所属大学別の JSPS 経験者数を紹介したところ、大学の規模・名声に比べて低いその数字に驚きと衝撃の声が上がり、申請奨励の機運が高まったように思います。

Dr. Boonchai Techumnat からは、外国人特別研究員への申請から渡日・滞在中にいたる詳細な経験談が語られ、日本語能力の必要性など、細かい質問が飛び交いました。



プログラム終了後、一部参加者との記念撮影。中央右が Dr. Virote 理事補

当日のプログラムは以下の通りです

12:30-13:00 Registration

13:00-13:05 Opening remarks from JSPS Bangkok office

-**Mr. Hiroaki Tanabe**, Deputy Director, JSPS Bangkok Office
(in place of Dr. Wataru Takeuchi, Director, JSPS Bangkok Office)

13:05-13:10 Welcome address from Thammasat University(TU)

- **Dr. Assoc. Prof. Dr. Virote Boonyapinyo**, Assistant to the Rector for General Administration Services, TU)
(in place of Assoc. Prof. Dr. Tawee Chaisomphob, Vice Rector for Research and Educational Services, TU)

13:10-13:30 Introduction of JSPS activity in Asia (Q&A included)

-**Mr. Hiroaki Tanabe**, Deputy Director, JSPS Bangkok Office
(in place of Dr. Wataru Takeuchi, Director, JSPS Bangkok Office)

13:30-13:50 Research experience in Japan as JSPS postdoctoral fellow from Thailand (Q&A) included

-**Assoc. Prof. Dr. Boonchai Techumnat**, Dept. of Electrical Engineering, Fac. of Engineering, Chulalongkorn University

13:50-14:10 Thammasat alumni talk: Research and education experience in Japan (Q&A) included

-**Dr. Raktipong Sahamitmongkol**, Construction and Maintenance Technology Research Center (CONTEC), Sirindhorn International Institute of Technology (SIIT), TU

14:10 Open discussion

Moderator: Dr. Raktipong Sahamitmongkol, CONTEC, SIIT, TU

Language: Thai, English



Dr. Boonchai 同窓会理事

当オフィスとしては今後も、様々な機会をとらえて同様の活動が続けていく予定で、7月29日にはマヒドン大学(Mahidol University)及びタイ王国工学研究科長会議(Council of Engineering Deans of Thailand)の会合での事業紹介を予定しております。

<http://jsps-th.org/?p=1299>

■ 東京大学東洋文化研究所 羽田所長来訪 ■

2011年7月22日(金)、東京大学東洋文化研究所 羽田正所長が当オフィスを来訪されました。

羽田所長はチュラロンコン大学(Chulalongkorn University)での研究集会に出席中で、同大学内に東京

東洋文化研究所は東アジアを研究対象の中心とする研究機関として設立された歴史がありますが、以降、研究領域をアジア全体に拡充させており、現在もタイを含めて東南アジア地域を専門とする研究者が在籍します。このことから、バンコクにおける日本の大学の研究拠点設置状況等を調査しており、今回の訪問はその情報収集と一環です。

ていることをお伝えすると、各機関ばらばらで進出することと比較して、ご自身のご経験からフランスやイギリスのように国単位で進出することの効率性についてお話しいただき、また、現地に拠点を設置することの大きな意義のひとつは資料の収集・提供であることにも言及されました。

当センターとしては、東洋文化研究所を含めて我が国の各研究機関・研究者等の来タイの際にはできる限りの協力を行う旨をお話しました。今後の連携を期待しております。



<http://jsps-th.org/?p=1329>

2011 年 7 月 22 日（金）、東京農工大学客員教授で、現在 Asia SEED（アジア科学教育経済発展機構）の理事を務めておられる河合栄一 教授のご紹介で、Asia SEED のプロジェクト開発・推進部コンサルタントである竹本高敏 東京工業大学原子炉工学研究所客員准教授および東京農工大学国際事業推進チーム 鈴木真由美 副チームリーダーが当オフィスを来訪されました。

東京農工大学は Asia SEED と共同で BTS 戦勝記念塔駅近くの Bangkok Thai Tower に事務所を構えており、そこに本拠を置きながら姉妹校での英語研修と実務研修を行うことを検討しています。その一環として、当オフィスでの簡単な補佐用務等があれば研修を目的として勤務することができないか、といったご相談を受けました。

竹本博士は原子炉工学を専門としておられます。3 月の福島での事故以来、タイでも原子力についての関



河井教授、鈴木副チームリーダー、竹本コンサルタント、副センター長

心が高まっており、これに答える形でタイ国内でのセミナー開催等を考えているので、JSPS 事業として利用可能なものがないか、といったご相談です。

タイとの二国間交流事業は共同研究のみでセミナーの開催は含まれていないことから、日本開催となるものの国際研究集会事業でセミナーを開催し、その席で研究スキームを構築するなどして二国間交流事業やアジア・アフリカ研究基盤形成事

業への申請を検討してはどうかと提案させていただきました。<http://jsps-th.org/?p=1336>

■ マヒドン大学で事業説明会を開催訪 ■

2011 年 7 月 29 日（金）、マヒドン大学（Mahidol University）理学部にて JSPS 事業説明会を開催し、若手研究者を中心に約 60 名が参加しました。

これは 7 月 8 日の表敬訪問において Clin. Prof. Dr. Piyasakol Sakolsatayadorn 学長及び Prof. Dr. Sansanee Chaiyaroj 研究教育担当副学長より要請を受けたことにより実現したものです。

JSPS の事業説明に加え、JSPS 事業経験者の体験談等を披露することで若手研究者の意欲を高めることを目的に、過去、ともに外国人特別研究員として日本で研究をされた、マヒドン大学神経行動生物学研究センター（Neuro-Behavior Biology Center）准教授でタイ王国 JSPS 同窓会（JAFT）会員の Dr. Wipawan Thangnipon およびチュラロンコン大学（Chulalongkorn University）工学部准教授で JAFT 理事でもある Dr. Boonchai Techaumnat にご参加、ご講演いただきました。

マヒドン大学理学部からは Prof. Dr. Skorn Mongkolsuk 学部長と Assoc. Prof. Dr. Sukumal Chongthammakun 副学部長にご出席いただき、Dr. Skorn 学部長より開催の挨拶をいただきました。



Dr. Boonchai 同窓会理事



7 月 21 日のタマサート大学での講演同様、Dr. Boonchai Techaumnat からは日立奨学金を得ての京都大学での博士課程学生時代から、外国人特別研究員として東京大学で過ごされた経験が詳細に語られ、その後のチュラロンコン大学での研究にいかにか生かされているかが伝わってきます。

Dr. Wipawan

Dr. Wipawan Thangnipon はマヒドン大学で修士を修められた後にイギリスで博士号を取得して、1995

年に外国人特別研究員として九州大学に滞在されました。写真をふんだんに用いた講演では、日本での研究生活だけではなく九州でのタイ人コミュニティとの交流にも触れられ、参加者たちの異国の地での生活に対する不安を大いに取りのぞきました。

当日のプログラムは以下の通りです。

9:00-9:30 Registration

9:30-9:35 Welcome address from Mahidol University (MU)

- **Professor Dr. Skorn Mongkolsuk** , Dean, Faculty of Science, MU

9:35-9:40 Opening remarks from JSPS Bangkok office

-**Dr. Wataru Takeuchi**, Director, JSPS Bangkok Office

9:40-10:00 Introduction of JSPS activity in Asia (Q&A included)

-**Dr. Wataru Takeuchi**, Director, JSPS Bangkok Office

10:00-10:20 Research experience in Japan as JSPS postdoctoral fellow from Thailand (Q&A) included

-**Assoc. Prof. Dr. Boonchai Techaumnat**, Dept. of Electrical Engineering, Fac. of Engineering, Chulalongkorn University

10:20-10:40 Mahidol alumni session: Research experience as JSPS postdoctoral fellow in Japan (Q&A) included

-**Assoc. Prof. Dr. Wipawan Thangnipon**, Neuro-Behavior Biology Center, MU

10:40 Open discussion

Language: Thai, English

同窓会メンバーの協力を得ながら、研究者として先行するタイ人から生の経験談を聞き、また同じ大学で勤務するシニア教員と経験を共有する機会を提供していくことは、事業広報活動としてのみならず、学術支援機関として非常に大切な活動であり JSPS 海外センターならではの取り組みです。

当オフィスとしては今後も、様々な機会をとらえて同様の活動を続けていく所存です。

<http://jsps-th.org/?p=1342>



Dr. Wipawan、Dr. Boonchai、センター長、Dr. Skorn 学部長、Dr. Sukumal 副学部長

■ タイ王国全国大学工学系研究科長会議にて事業紹介を実施 ■

2011 年 7 月 29 日（金）、バンコク市内エメラルドホテルにて開催されたタイ王国全国大学工学系研究科

長会議（CEDT: Council of Engineering Deans on Thailand）にて、事業紹介を行いました。

これは、6月22日開催された JAFET 理事会にて Dr. Paritud 副会長よりご提案いただいたもので、タイ国内の工学研究科長が所属するネットワークです。Dr. Paritud より、現在議長を務める Assoc. Prof. Dr. Viboon Chunkag キングモンクット工科大学北バンコク校（King Mongkut's University of Technology North Bangkok）工学研究科長にご紹介いただき、実施の運びとなりました。



Dr. Viboon 議長

CEDT には現在 58 の大学が所属しています。今年最初の会合となる場で約 15 分の時間をいただき、JSPS 及び当オフィスの事業紹介を行いました。

ここでも外国人特別研究員のほか、論文博士号取得者に対する支援事業への質問が特に多く、タイ国内におけるファカルティ・ディベロップメントに対する需要の高さがうかがえました。

当オフィスでは、今後、当会議における事業紹介をきっかけにタイ国内における JSPS への新たな需要拡大していきたいと考えております。 <http://jsps-th.org/?p=1357>



**Brainstorming Seminar to search for Research Direction
in Engineering and Industry Research**

Organized by The Engineering Institute of Thailand under H.M. the King' s Patronage

Cooperated with The Council of the Engineering Deans of Thailand (CEDT)

Supported by Office of the National Research Council of Thailand (NRCT)

CEDT の主な参加校は以下の通りです。

Chulalongkorn University, Rachamonkol Tonyaburi, Bangkok University, Kasetsart University, Kasembundit University, Khon Kaen University, Chiangmai University, Saint John University, Technology Prajomkao Thonburi University, Technology Mahanakorn University, Syrabaree University, Thonburi University, Thammasat University Rangsit, Dhurakij Pundit University, Naresuan University, North Chiangmai University, Buraba University, North Eastern University, Mahidol

University, Maejo University, Rangsit University, Rajahathani University, Ram Kaemhaeng University, Wongchaowalitkul University, Walailak University, Arinakaranwiroj University, Sripratum University, Silpakorn University (Sanamchan Campus), Songklanakarini University, Siam University, University of the Thai Chamber of Commerce, Assumption University, Ubonrachatani University, South-East Asia University, Pathumwan Institute of Technology, King Mongkut's Institute of Technology Ladkraban, King Mongkut's University of Technology North Bangkok, Chulachomklao Royal Military Academy, Royal Thai Naval Academy, Royal Thai Airforce Academy, Chinag Rai College, Asian Institute of Technology, Rajamangala University of Technology Krungthep, Rajamangala University of Technology Suvarnabhumi, Pathumthani University, Mahasarakham University, Rachamongkol University, Rajamangala University of Technology Lanna, Rajamangala University of Technology Rattanakosin, Rajamangala University of Technology Isan, Rajamangala University of Technology Srivijaya, Rajamangala University of Technology Tawan-ok Uthenthawai Campus



事業紹介するセンター長



会場と参加者

■ 阪神地区 4 大学合同留学フェア ■

2011 年 7 月 30 日（土）、Bangkok Convention Center at CentralWorld にて大阪大学・関西大学・関西学院大学・神戸大学主催の合同留学フェアが開催され、当オフィスより副センター長が視察しました。

これは、阪神地区の上記 4 大学間の国際化における協力関係を構築する目的で、大阪大学が推進して結成した「阪神地区大学国際化推進ネットワーク」の最初の取組みになります。費用は大阪大学の「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」費より負担されたということです。

会場は、各大学がそれぞれに一室を設けて留学説明や個別相談を行うエリアと、4 大学が順番に大学紹介と模擬講義を行うエリアに分かれました。

オープニングセレモニーでは大阪大学の辻毅一郎 国際担当理事より挨拶があり、タイをはじめとする東南アジアと関西の交流の深さや関心の高さが説明され、より多くの留学生を迎えようとする、地域全体の熱意を伝えました。

神戸大学・関西大学・関西学院大学・大阪大学の順に大学紹介が行われた後、集まった約 100 人の高校生や大学生、関係者等は各大学のブースへの足を向け、各大学関係者がそれぞれ個別の相談に応じました。

阪神地区大学国際化推進ネットワークでは今後も共同でファカルティ・ディベロップメントの取組みを行うなど継続した協力関係を維持する予定とのことです。

当オフィスとしても、在タイの日本大学の支援として何ができるかを考えていきたいと思えます。

<http://jsps-th.org/?p=1519>



日本大使館も協賛の「ありがとうタイ・がんばろう日本」と題したキャンペーン

■ 科学技術展への出展 ■

2011 年 8 月 6 日（土）から 21 日（日）まで、バンコク郊外の BITEC (Bangkok International Trade and Exhibition Centre バンコク国際貿易展示場) にて科学技術展 National Science and Technology Fair 2011 が開催され、当センターもブース出展を行いました。

これは 8 月 18 日がタイの「科学の日」であることにちなんで、青少年および国民に科学技術を広く紹介し関心を高めてもらうため、タイ科学技術省 (MOST: Ministry of Science and Technology) 及び国立博物館 (NSM: National Science Museum) が主催しているものです。当センターでも 2006 年より出展しており、例年、バンコクだけではなくタイ全土より小中学生を中心として 100 万人以上の来訪者を集めるイベントです。

8 月 9 日（火）には、Her Royal Highness Maha Chakri Sirindhorn 王女を迎えて開会式が実施され、センター長も VIP の一名として出席しました。



当センターの出展ブース

化学賞を受賞した根岸英一教授および鈴木章教授を取り上げました。

日本からはこのほか、JAXA (宇宙航空研究開発機構)、JIRCUS (国際農林水産業研究センター)、NEDO (新エネルギー・産業技術総合開発機構)、RESTEC (リモートセンシング技術センター) が出展を行いました。

また、日本のほかに、中国、ロシア、ドイツ、フランスなどがタイ国外からの参加者としてブース展示を行いました。期間中の前来訪者は 124 万人と発表されています。<http://jsps-th.org/?p=1559>

■ 大分大学より山岡教授及び川本教授が来訪 ■

2011年8月16日（火）および17日（水）、大分大学より山岡吉生教授及び川本文彦教授、それに東京大学で教員をした後、大分大学に学生として再入学された城戸康年博士が来訪されました。

これは、今年6月に当センターを訪問された大分大学の内田助教のご紹介によるもので、今回はミャンマーでの調査を経ての訪問となりました。

大分大学医学部では科学技術システム改革事業「アジアにおけるヘリコバクター・ピロリ菌の分子疫学研究」とJSPS組織的な若手研究者等海外派遣プログラム「東アジア分子疫学研究推進のための若手研究者派遣プログラム」を受けており、今回の訪問は前者によるものです。

地域による胃がんの発生率とピロリ菌の感染率を比較し、ピロリ菌自体の変異を調べると同時に民族の移動の過程を解明していこうという取り組みで、タイをはじめベトナム、台湾、ミャンマー、インドネシア、ラオスなど東南アジア各地域のほか、ブータンや、オーストラリアやパプアニューギニアといった太平洋地域のピロリ菌の採取を行っています。

現在の科学技術システム改革事業課題が平成23年度で終了した後の資金の確保の相談を受け、当センターからは研究拠点形成事業や二国間交流事業を紹介すると同時に、既存の他の研究分野とのシナジーや橋渡しを視野に入れつつ、フィールドとなる各地の社会知に還元しうるような研究計画の作成をご提案しました。

東南アジアに拠点を置くものとして、各国にとってのドナーとなるのではなく、パートナーとして連携・

発展するという視点が、今後の東南アジア研究に盛り込まれていくことを期待します。

<http://jsps-th.org/?p=1550>



センター長、山岡教授、城戸博士



城戸博士、川本教授、センター長

■ JAFT がセミナーを開催 ■

2011 年 8 月 19 日、バンコク郊外 IMPACT にて、JAFT (JSPS Alumni Forum of Thailand タイ JSPS 同窓会) 主催セミナーが開催され、当センターより副センター長および現地職員が視察しました。

これは、タイ温室効果ガス制御機関 (Thailand Green House Gas Management Organization) 及びタイ天然資源環境省 (Ministry of Natural Resource and Environment) が 8 月 18-19 日に主催した第 2 回タイ気候会議 (CTC2011: Climate Thailand Conference) の一環として開催されたもので、「People Participation in Green Areas Development for Reducing Global Warming」と題して、地球温暖化抑制と都市緑化をテーマに、以下 4 つの講演を行いました。

1. Human-Centered Design

Dr. Prowpanarai Tongliemnak, Faculty of Architecture and Planning, Thammasat University

スウェーデン・ストックホルムの地下鉄会談を実際に音の出るピアノに改造することで、エスカレーターから階段利用へ移行する人々が劇的に増加したことを例に、1 やる気、2 能力・性能、3 行動への引き金、の 3 つの要因によって人々の行動変化を促すことの可能性と重要性を示した。



2. Guidelines for the Promotion of Community Participation to increase Urban Green Space for Climate Change Mitigation

Prof. Dr. Sunee Mallikamarl, JAFT Executive member, Faculty of Law, National Institute of Development Administration, NIDA

1992 年気候変動枠組条約、1997 年京都議定書など、国際法的な側面から地球温暖化への対応を分析。工業の発展に支障をきたすわけにいかない発展途上国であるタイとしては、単純に二酸化炭素を減らすことだけでなく、緑化による二酸化炭素の吸収が重要であることを示した。



3. Biochar Driving Force Technology for Green Energy

Assoc. Prof. Dr. Orasa Sooksawang, JAFT member, Faculty of Social Sciences, Kasetsart University

農林業から排出される廃品をバイオ炭 (Bio-char) として利用することにより、バイオマスという新たなエネルギー源を得られると同時に、それらを販売を通して農村地域の経済を振興させるなど新たなサイクルを生み出す可能性を紹介した。



4. People Participation in Urban Green Space Development

Ms. Montatip Sommeechai, Faculty of Forestry, Kasetsart University

都市部への人口集中が世界的に進行しており、それにとまって空気、水、廃棄物など環境汚染も進行している。これに対応するものとして都市緑化を提案。



余暇、環境、経済効果など都市緑化の様々な側面を豊富なビジュアル資料を用いて紹介した。

<http://jsps-th.org/?p=1617>

■ JSPS 同窓会組織の紹介（東南アジア・南アジア） ■

2011 年 8 月 25 日（木）、当ウェブサイト上にタイ、インド、バングラデシュ、フィリピン各国の JSPS 同窓会の紹介記事をアップしました。URL は以下の通りです。

http://jsps-th.org/?page_id=582#alumni_associations

これは、東南アジア・南アジア各国の同窓会組織の将来的な連携を目指すという、当センターの今年度計画の一環です。第一歩として各国の同窓会組織についての概要を、各組織に同様のフォーマットで記事にさせていただきました。

2005 年 フィリピン The Philippine Society of JSPS Ronpaku Fellows (PRF)

2006 年 インド Indian JSPS Alumni Association (IJAA)

2009 年 バングラデシュ Bangladesh JSPS Alumni Association (BJSPSAA)

2010 年 タイ JSPS Alumni Forum of Thailand (JAFT)

以上の順で設立を迎え、各国合計では 400 名を超える同窓生が所属しています（ただし、フィリピンは論博経験者に絞られていることもあり、現時点では JSPS 同窓会組織としての正式な承認はなされていません）。これらの記事は JSPS Quarterly にも掲載予定です。

当センターとしては今後も、中国以南のアジアにおける JSPS 同窓生の連携を目指して活動を続けていきたいと思います。

<http://jsps-th.org/?p=1577>



สมาคมศิษย์เก่า จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย ประเทศไทย

JSPS Alumni Forum of Thailand (JAFT)

1. Introduction



President

Dr. Busaba Yongsmith

JAFT (JSPS Alumni Forum of Thailand) has been established on 5 February 2010, the celebration day of the 20th Anniversary of JSPS Bangkok Office (JSPSB). In this regard, the JSPS President, Professor Ono Motoyuki delivered a congratulatory address to the memorable event. JAFT is the continuing output based on ARAT (The Association of RONPAKU Alumni of Thailand) initially established in February 2005 by Professor Dr. Fumitake Yoshida, the 12th JSPSB director. The difference is that ARAT was focused only JSPS RONPAKU alumni while JAFT (accelerated by Dr. Kou Ikejima, the 13th director of JSPSB) extended to other JSPS researcher groups, JSPS Invitation Fellowship for Foreign Researchers in Japan and JSPS Postdoctoral Fellowship for Foreign Researchers. The objective of JAFT is to be a hub for all JSPS Alumni members in Thailand. It should be a basement where knowledge is integrated and exchanged so as to promote scientific activities aiming national development. To promote the relationship between Thai and Japanese academic institutions, and with JSPS through Bangkok office is another big role. At this moment, JAFT has 83 regular members including 12 executive committee members. President is Dr. Busaba Yongsmith, Professor, Faculty of Science, Kasetsart University.

2. Major activities

As our major activities in the past, every year since 2005, ARAT launched S&T activities twice a year for the public. One event is in February, joining the JSPSB ceremony presenting JSPS medals of merit to RONPAKU fellow who earned the PhD that year. Another event is in August, joining NRCT (National Research Council of Thailand) Annual Meeting (Thailand Research Expo) through specific seminars/ panel discussion / R&D exhibition. Thai public got to know more about us through these activities. The outcome for our activities sometimes could lead the society. JSPSB has supported ARAT seminars and JAFT seminars listed as below;

Dec. 2005 “Tsunami Lessons Learned from the December 26th 2004 Tsunami and Preparation for the Future” as ARAT Seminar

- Sep. 2006 “Thailand-Japan Cooperation Program: JSPS RONPAKU (Dissertation Ph.D.) Program on Country Development” at Thailand Research Expo 2006
- Feb. 2007 “Fundamentals and New Technology in Earthquake Engineering” as ARAT Seminar
- Sep. 2008 “Outstanding ARAT Members and Their Research Activities on the Sustainable Development of the Country” at Thailand Research Expo 2008
- Aug. 2009 “Thai People to Know About, Move Forward to, and Cope with Global Warming” at Thailand Research Expo 2009
- Aug. 2010 “Seeking New Knowledge in Social Sciences and Humanities in Resolving the Social Crisis” at Thailand Research Expo 2010
- Feb. 2011 “Biochar: A Carbon Negative Technology Approach to Urban Community Development” as JAFT Seminar

In April 2011, JAFT raised a donation as well as the message of sympathy on Japan disaster 2011 to Japan Red Cross through Japan Embassy at Bangkok. One of our future activities, JAFT is going to give a seminar entitled “People Participation in Green Areas Development for Reducing Global Warming” on August 19, 2011 under the contribution of Climate Thailand Conference 2011. In addition, JAFT has already selected and dispatched two representative researchers to Japan under the BRIDGE Fellowship Program.

3. Contact information

Executive Secretary: Dr. Boonchai Techaumnat boonchai.t@chula.ac.th
Associate Professor, Faculty of Engineering,
Chulalongkorn University
Address of secretariat: 196 Phaholyothin Rd, Chatuchak, Bangkok 10900,
Thailand.



RONPAKU Medal Ceremony (Feb. 2011 at Siam City Hotel, Bangkok)

Indian JSPS Alumni Association (IJAA)

1. Introduction



Chair: Dr. Sakthi Kumar, Professor, Graduate School of Interdisciplinary New Science, Toyo University, Kawagoe, Saitama, JAPAN. (shown on the left)

General Secretary: Dr. Pravin D. Kunte, Scientist, National Institute of Oceanography, Dona Paula, Goa, INDIA.
IJAA has 205 members including 13 executive committee members.

IJAA constituted four chapters viz. East, West, North and South to coordinate activities.

The first meeting with JSPS office bearers, with an idea to launch Indian alumni association, was held on 28 April, 2006 at JSPS head office, Japan which received an overwhelming support from office bearers of JSPS fellow plaza. First get-together of the founder alumni members was organized on 28th October 2006 at Toyo University Campus, Kawagoe which was considered as official start of the **Indian JSPS Alumni Association (IJAA)**.

The objective of the IJAA is to promote scientific exchange of information and knowledge between India and Japan, to provide guidance to researchers concerning JSPS Fellowship Programs, to support Japanese researchers working in India, to conduct joint activities with academic institutions and science promotion agencies, and to collect and disseminate information regarding science, technology, society and culture. In short, for various activities, **IJAA** act as a hub for all JSPS Alumni members in India.

2. Major Activities

May 19th 2006, Launched IJAA web site (www.indianjpsalumni.org)

Oct 4th 2006 Started Yahoo group

(<http://tech.groups.yahoo.com/group/indianjpsalumni/>).

Dec 18th 2006 Accepted the bylaw of the Association after discussions through yahoo group.

Jan 1st 2007 Office bearers of the association took charge.

Mar 31st 2007 Launched 1st issue of CONCORD-1 (News Letter of IJAA)

May 2008 Launched News Letter CONCORD-2

Feb 8th 2010 1st batch of Bridge Fellow selection and nomination

May 10th, 2010 Organized first International Seminar

May 2010 Launched News Letter CONCORD-3

May 11th 2010 Conducted first General Assembly meeting

May 31st 2010 2nd batch of Bridge Fellow selection and nomination

Jan 6th 2011 3rd batch of Bridge Fellow selection and nomination

May 27th 2011 4th batch of Bridge Fellow selection and nomination

Aug 5th, 2011 To organized 2nd International Conference.

Aug 6th , 2011 To conducted 2nd General Assembly meeting

Executive Committee meetings are conducted time-to-time via E-mails & Yahoo grp.

3. Contact information

Dr. Pravin D. Kunte, General Secretary, IJAA
D-201, Landscape Shire,
Caranzalem, Goa - 403 002, INDIA
dr_pdkunte@yahoo.com
www.indianjpsalumni.org



IJAA Executive Committee members along with the Guests
(May, 2010 at Indian Institute of Technology, Delhi)



IJAA assembly members along with the guests
(May, 2010 at Indian Institute of Technology, Delhi)

Bangladesh JSPS Alumni Association (BJSPSAA)

1. Introduction



President

Professor Naiyyum Choudhury

Secretary, Bangladesh Academy of Sciences, NMST Bhavan,
Agargaon, Dhaka 1207, Bangladesh, e-mail: naiyyum@gmail.com



General Secretary

Professor M. Tofazzal Islam

Head, Department of Biotechnology, Bangabandhu Sheikh Mujibur
Rahman Agricultural University, Gazipur-1706, **Bangladesh**
Tel. +88-0171-4001414; Fax: +88-02-9205333,
e-mail: tofazzalislam@yahoo.com

Bangladesh JSPS Alumni Association was established in 2009 with direct support and guidance from the Embassy of Japan in Bangladesh and JSPS Head Office in Tokyo, Japan. This association is one of the most prestigious academic associations in the country, which organizes regular academic meetings and symposia on important topics of local and global interests. It is a platform of former JSPS fellows in Bangladesh to continue their research and academic activities in collaboration with scholars of Japan to change the society and face the new challenges through generation of new knowledge and technology. The current number of member is 72.

2. Major activities

On March 21, 2009, the first formal gathering of 70 Bangladeshi JSPS alumni and some notable personalities from Bangladesh and Japan was held at *Radisson Hotel* to form an alumni association with direct support and guidance from the Embassy of Japan, Dhaka and JSPS head office, Tokyo.

The first science symposium of the BJSPSAA was held on December 19, 2009 at Jahangirnagar University located in the suburbs of Dhaka on *Science and Technology for Sustainable Development*. Seventy one JSPS alumni and some

distinguished guests from Bangladesh and Japan participated in the symposium. The symposium ended by an Annual General Meeting of the BJSPSAA.

The second symposium of BJSPSAA was held on December 21, 2010 at the Auditorium of Bangladesh University of Engineering and Technology (BUET) in Dhaka. The theme of the symposium was *Climate Change and Biodiversity*. Three distinguished guests namely, Prof. M. Muhibur Rahman, Member of University Grants Commission of Bangladesh, H.E. Mr. Tamotsu Shinotsuka, Ambassador of Japan to Bangladesh, Prof. SM Nazrul Islam, Vice-Chancellor, BUET, and Dr. Hasan Mahmud, State Minister for Environment and Forests of Bangladesh delivered their speeches in the inaugural session as *Special Guests* and *Chief Guest*, respectively.

Near future:

- Have a permanent office or meeting place by August 2011.
- Develop an official website with profiles of all members of the association by September 2011.
- Drive for inclusion of all former JSPS fellows living in the country as registered member of the association.
- Arrange regular seminar, symposia and meetings. In February 2012, Bangladesh celebrates 40th anniversary of her diplomatic relationships with Japan. The BJSPSAA has a plan organize **3rd science symposium** tentatively titled “**Climate Change and Global Sustainability**” in early February 2012.



A group photo of members of the Bangladesh JSPS Alumni Association (BJSPSAA) and Japanese guests attended in second symposium of BJSPSAA held on December 21, 2010 at Conference Hall of Bangladesh University of Engineering and Technology, Dhaka.



Creating Knowledge for Change
The Philippine Society of JSPS Ronpaku Fellows



Present President: *Dr. Maricar S. Prudente*, Full Professor,
(shown left) College of Education,
De La Salle University, Manila

Past Presidents: *Dr. Pagasa Gaspillo*, Full Professor,
College of Engineering,
De La Salle University, Manila
: *Dr. Marita Dimaano*, Full Professor,
College of Engineering
University of Sto. Tomas, Manila

1. Introduction

The Philippine Society of Ronpaku Fellows (PRF) started in July 20, 2005 when former JSPS Ronpaku alumni met and decided to form a society with the belief that being united, the group can contribute significantly in accelerating national development through the advancement and promotion of science and technology. This momentous meeting was made possible with the coordination and support from the office of the Assistant Secretary of DOST and JSPS Program Director- *Engineer Ma. Lourdes P. Orijola*. The fellows, totalling 79 members completed their PhDs in the fields of Agriculture: Rice Research and Livestock, Fisheries, Engineering, Medicine, Biotechnology, Physics, Economics and Environmental Chemistry. The group decided to formulate the society's constitution and by-laws and in April 26, 2006, the group elected its first set of Board of Directors with Prof. Gaspillo, elected as President. In November 2006, we came out with the maiden issue of PRF Connect, our newsletter, with the assistance from the Department of Science and Technology (DOST).

Our society adheres to the vision and mission of working together to make each other realize our full potential in the sciences and technology through research, education, and training. Working collaboratively with the Department of Science and Technology and other organizations, we are an effective driving force influencing government policy formulation, providing technical and other research-related services vital to national development. We are guided by our core values: *integrity, commitment, excellence and professionalism*. Specifically, the society aims to:

- ❖ harness and utilize members' collective expertise in the promotion of research, education, & training in S & T;
- ❖ foster closer ties among JSPS RONPAKU Scholars, & serve as catalyst for cooperative endeavors in S&T;
- ❖ recommend policies & priority areas to the government regarding S&T;
- ❖ promote & protect members' rights and well – being.

2. Major Activities

To attain these objectives, PRF members are actively engaged in *knowledge generation activities* as evidenced by the PRF members' research productivity (*i.e.* scientific/technical

publications in abstracted/refereed journals, conference presentations; recognition of scientific work by national agencies. The society is also very active in *knowledge utilization activities* through our various extension services (*i.e.* technical expertise in aid of legislation/advocacy, community services/countryside development, technopreneurship assistance (*knowledge transfer for capital gain*) and our continuing education programs and technology transfer (*knowledge for dissemination/commercialization*).

Furthermore, we have identified our core competencies in relation to the Philippine S&T Framework Plan, which are as follows;

- Highly competent scientists / researchers / professionals
- Multidisciplinary research expertise
- Good organizational set-up
- Wide organizational base
- High scientific productivity
- Common/shared experiences and values
- International recognition

As a society, we also intend to abide by our sustainability plans that involve: *society management* through regular board meetings, continuing education/technical fora, strategic planning workshops; *institutional development/capacity building* through postdoctoral fellowships and holding administrative positions; as well as *linkaging and partnership* with DOST and other agencies/institutions.

3. Contact Information

Dr. Maricar S Prudente
President, Society of Philippine Ronpaku Fellows
Director, Lasallian INstitute for Development and Educational Research
Full Professor, De La Salle University
2401 Taft Avenue, Manila 1004 Philippines
Tel./Fax: 63-2-5360232
E-mail: prudentem@dlsu.edu.ph or msprudente@yahoo.com



The first PRF Scientific-Technical Lecture Seminar held (November 2007 at De La Salle University)

■ JSPS-NRCT セミナーを開催 ■

2011 年 8 月 27 日（土）、バンコク市内 Bangkok Convention Center at CentralWorld にて、JSPS-NRCT Seminar at Research Expo 2011 「Advanced technology in Japan - research for the disabled and elderly」を開催しました。



ロボットスーツ HAL

左：全身用

右：下肢用

大いに注目を集めました。

これは、8 月 26-30 日に NRCT 主催で行われた Thailand Research Expo 2011 の一環として開催されたもので、2009 年以来毎年、NRCT と当センターとの共催で開催しています。例年「Advanced Science and Education in Japan」と題して、日本の先端研究と教育を広く紹介し、様々な分野の研究者を日本からお招きして講演いただきてきました。

今回は NRCT の Prof. Dr. Soottiporn Chittmittrapap 事務局長の強い要望により、昨年お越しいただいた筑波大学教授で株式会社サイバーダイナミクス CEO の山海嘉之 教授に再登場いただいたほか、2011 年 2 月から JSPS-JICA の枠組みである科学技術研究員派遣事業にて国立シリントン・リハビリテーションセンター (Sirindhorn National Medical Rehabilitation Center) に派遣されている、新潟医療福祉大学の坂井一浩 准教授に講演をお願いしました。

各講演は英語ですが、タイ人研究者によるタイ語での概訳と簡単な説明をつけることで、研究者ではない一般市民が多くを占める聴衆の理解を図っています。

“Cybernetics - fusion of human, machine and information systems”

-Prof. Yoshiyuki Sankai (Leader of GCOE, University of Tsukuba)

-Assist. Prof. Dr. Yodchanan Wongsawat (Director, Brain-Computer Interface LAB (BCI LAB), Department of Biomedical Engineering, Faculty of Engineering, Center for Biomedical and Robotics Technology (BART LAB), Mahidol University)

筋肉を動かす際に皮膚表明に漏れ出す微弱な生体電位信号をセンサーで読み取って装着者の筋肉の動きと一体的に関節を動かすロボットスーツ HAL (Hybrid Assistive Limb)の紹介が行われました。これに



より立ち上がる、歩くなどの運動が自律的に可能になるのです。すでに北欧各国とは契約が結ばれているなど、それが現実に利用可能なものだというのが、実際に実物を示しながら紹介されました。

“Biomechanics and Human Motion Analysis for Rehabilitation Professionals”

-Assoc. Prof. Kazuhiro Sakai (JICA expert to Thailand with JSPS Program, Niigata University of Health and Welfare)

-Dr. Piyavit Sorachaimetha (The Prosthetics and Orthotics Unit, Sirindhorn National Medical Rehabilitation Center)

高齢者や障害者の介護を行うにあたって、被介護者だけではなく介護する側の動きをカメラなどの測定機器を用いて解析し、双方の力点・負担の重心を明らかにしてサポートを行うという取組みとその重要性が紹介されました。山海教授の講演にも触れながら一番初めに語られた「できるようにするまで続ける」という強い信念が非常に印象的でした。



100 名ほど収容の会場には人が溢れて補助椅子が追加されたり、各講演とも質問が相次ぐなど、反響の大きさは一目瞭然と言えるほどでした。

その後、Central World 内 Laem Charoen Seafood で NRCT 主催の夕食会が開かれ、Prof. Dr. Soottiporn 事務局長をはじめとした NRCT 上級職員のほか講演者、タイ人モデレーター、当センター職員等で懇談しました。

タイ社会が今後急速に高齢化を迎えようとしている中で、時勢に適した学術・実践トピックをタイ日両国の学術機関である NRCT と JSPS が的確につかみ、実施したという点は、大いに評価できるものと言えるでしょう。

当センターとしては今後も、NRCT との緊密な連携を図り、タイ日両国の科学技術、社会研究の促進に努めていきたいと思えます。<http://jsps-th.org/?p=1631>



左から Prof. Dr. Soottiporn NRCT 事務局長、山海教授、Ms. Choosri 国際部長、Dr. Yodchanan、Dr. Piyavit、坂井准教授、センター長、オフィススタッフ、Ms. Pannee 課長、Mr. Sawaeng 課長、副センター長

■ 大阪大学バンコク教育研究センター 関センター長、杉山副センター長来訪 ■

2011 年 8 月 31 日（水）、大阪大学バンコク教育研究センターの関センター長及び杉山副センター長が当センターを来訪されました。

2011 年 10 月 15 日（土）に当センター及びタイ学術研究会議（NRCT）主催で開催する JSPS-NRCT Seminar “Study and research opportunities in Japan and perspective of Thailand by Japanese social scientists（日本での教育・研究機会と社会科学によるタイ社会分析）” <http://jsps-th.org/?p=1581> の中で行う、タイに事務所を構える日本の大学紹介ポスターについての打合せです。

大阪大学では現在、合計 4 つの拠点をバンコク市内・近郊に構えており、各拠点のポスターを作成すると大学としては重複するという懸念について、その可否・対応を相談いただきました。当センターとしては原則として「一拠点、一枚」を掲げておりますので、負担でない限り 4 枚作成いただくようお願いいたしました。

なお、杉山副センター長は今月末をもって 2 年の任期を終え、帰国することが決定しています。当センターとしてはメンバーの着任時よりお世話になり、様々にお気づかいいただきました。近く簡単な送別会が予

定されてはおりますが、仕事上でオフィスにお越しいただくことはこれで最後になるかもしれません。お疲れ様でした。

帰国後の引き続きのご活躍を祈念しております。

<http://jsps-th.org/?p=1660>



関センター長、杉山副センター長、田辺副センター長

■ リモート・センシング技術センター本澤博士が来訪 ■

2011 年 9 月 6 日（火）、財団法人リモート・センシング技術センター（RESTEC: Remote Sensing Technology Center of Japan）より派遣され、宇宙航空研究開発機構（JAXA: Japan Aerospace Exploration Agency）タイ駐在員事務所に駐在している本澤雅彦博士が当センターを来訪されました。

RESTEC は 1975 年に設立された日本で最初の衛星利用機関で、日本国内外の地球観測衛星からの観測データを受信、処理、解析する業務を行うほか、世界各国で人材育成事業を実施しています。RESTEC による研修は、JICA や JAXA といった日本の機関の委託を受けて実施しているもののほか、世界銀行からの委託を受けているものもあり、受講者は全世界ですでに 3,000 人を超えているということです。

今回の訪問目的は、RESTEC が近く研修生同窓会の立ち上げを考えているということで同窓会組織が活動を行っている JSPS のノウハウのほか、衛星利用における新たな世代の研究者発掘についての相談でした。

当センターとしては、実務型ワークショップの開催による人材発掘や、研究費獲得を目指した長期的な育成策として、JSPS・JICA の枠組みで実施している科学技術研究員派遣事業の利用などを提案いたしました。

その最終的な研究費として二国間交流事業や研究拠点形成事業といった JSPS 事業を利用いただければ、RESTEC による育成、JSPS による発展、そして JST といった更なる日本による支援での研究者ネットワークの構築が可能になるのではないかと考えています。

当センターとしては今後とも在タイ日本機関と連携して、科学技術への発展に貢献したいと考えております。<http://jsps-th.org/?p=1710>



本澤博士、センター長

■ 大阪大学 仁平教授来訪 ■

2011 年 9 月 8 日（木）、大阪大学生物工学国際交流センターの仁平卓也（にひら・たくや）教授が当センターを来訪されました。センター長出張中につき、副センター長が対応いたしました。

仁平教授は現在、タイではマヒドン大学を相手機関にアジア研究教育拠点事業（Acore）「Next-generation bioproduction platform leveraging subtropical microbial bioresource」を実施しているほか、2010 年（平成 22 年）度の BRIDGE Fellowship の派遣者である Dr. Busaba Yongsmith タイ JSPS 同窓会長を受入れていただいております。

今回の訪問では、2011 年 10 月 27-28 日にクイーンズパークホテルで実施される第 23 回タイ生物工学会年次総会（TSB2011：23rd Annual Meeting of the Thai Society for Biotechnology）の中で開催される Acore 事業のセミナー「JSPS-NRCT-NSTDA JOINT MEETING」で、JSPS として当センターから挨拶をするよう依頼をいただきました。

当センターでは、センター長がすでに



副センター長、仁平教授

TSB2011 の Advisory Board に名を連ねております。また、仁平先生には上述のとおり JSPS 事業に深くご協力いただいております、喜んで引き受けさせていただきました。

なお、実施中の Acore 課題はその前身である拠点大学交流事業から発展的に継続しているものであり、ここ数年は特に若手研究者の育成に注力をされているとのこと。

当センターとしまして、日タイ間の息の長い連携協力と、次世代のさらなる発展に貢献していきたいと思っております。<http://jsps-th.org/?p=1697>

■ ラオス出張 JAXA プロジェクト会合でセンター紹介を実施 ■

2011 年 9 月 11 日（日）から 13 日（火）まで、センター長及び副センター長がラオス・ビエンチャンへ出張しました。目的は、9 月 12-13 日にラオス天然資源・環境省内（Ministry of Natural Resource and Environment）水資源環境庁（WREA: Water Resources and Environment Administration）で開催される、日本の宇宙航空研究開発機構（JAXA: Japan Aerospace Exploration Agency）主導の研究プロジェクトの関係者会議に参加し、当センターの事業紹介を行うことです。

国内の大学がラオス国立大学だけというラオスにおいて、研究人材をもっとも多く擁するのは中央省庁であるといえます。同省の事務次官である Madam Monemany

NHOYBOUKONG 女史をはじめ、国内の主要な関係機関 12 ヶ所からも関係者が参加した中で当センター及び JSPS の事業紹介を行ったことは、ラオス国内の研究人材に日本及び JSPS を早期に強く印象づけるものとして意義深いものであったといえます。

また、上述のラオス国立大学からも研究者が参加しており、彼を介して、同大学への表敬訪問を打診したほか、JAXA から参加の福田徹 宇宙利用ミッション本部地球観測研究センター長には、12 月にシンガポールで開催される第 18 回アジア太平洋地域宇宙機関会議（APRSAF: Asia-Pacific Regional Space Agency Forum）で事業紹介セッションを設けていただくよう打診しました。

なお、センター長はプロジェクト関係者としても会議に参加し、研究発表を行いました。その様子は現地の新聞である Vientiane Times でも取り上げられ、記事にされています。

当センターとしては今後とも、東南アジア地域での JSPS 広報活動を積極的に続けていきたいと思っております。



Madam Monemany 事務次官、センター長



中央左が福田 JAXA センター長

<http://jsps-th.org/?p=1729>

ラオスからの参加機関は以下の通りです。

1. Department of Meteorology and Hydrology
2. Department of Forestry
3. Remote Sensing Center
4. Department of Water Resources
5. Forest Inventory and Planning Division
6. Forest Resources Information Center
7. Ministry of Natural Resources and Environment
8. National University of Lao
9. Remote Sensing Center
10. Space Application for Environment
11. Wildlife Conservation Society
12. Water Resources and Environment Research Institute



8. ラオス国立大学からの参加者への個別説明

■ 京都大学東南アジア研究所 駐在員交代のご挨拶 ■

2011 年 9 月 14 日（水）、京都大学東南アジア研究所バンコク連絡事務所より、富田晋介 助教（東京大学農学生命科学研究科）および園部太郎 助教（京都大学エネルギー科学研究科）が当センターを来訪されました。

富田助教が 3 ヶ月の任期を終え、新たに園部助教が 12 月上旬までの 3 ヶ月間、同連絡事務所に駐在するというご挨拶をいただきました。

富田助教には 10 月 15 日（土）開催の JSPS-NRCT セミナーに関して、京都大学からの講演者との連絡調整に大変に骨を折っていただき、感謝の念に

堪えません。

また、園部助教とは今年 3 月の ASEAN 大学連合・京都大学ワークショップや 6 月のマレーシアでの SEE Forum で事業紹介の機会をいただくなど、たびたびお世話になっており、今後なおいっそうの協働関係が期待されます。

なお、京都大学側では、同連絡事務所を可能な限り関係者等の集いに活用したいという意向を持っており、今後、折々に会合を開く予定ということです。



富田助教、園部助教、センター長

<http://jsps-th.org/?p=1742>

■ 第 6 回同窓会理事会開催 ■

2011 年 9 月 15 日（木）、前回に引き続き、当オフィス最寄りの BB Building に入居する JAXA（宇宙航空研究開発機構）バンコク駐在員事務所にて、タイ国日本学術振興会同窓会（JAFT: JSPS Alumni Forum of Thailand）の第 6 回理事会が開催されました。

同窓会長の Dr. Busaba Yongsmith をはじめ、6 名（定員 12 名）の理事が出席し、センター長を交えて議事が進行され、2011 年 6 月 22 日に開催された第 5 回理事会の議事録が承認されました。

そのほか、JAFT の正式な住所を NRCT 内としたいという求めに対し、NRCT より許可回答があったことが Dr. Busaba 会長から伝えられたほか、Dr. Somkiat 登録担当理事が制作した JAFT のロゴ案を正式に採用することが決まりました。

また、JAFT から JSPS に対して、アジア向け予算の減少に対する懸念が示されました。タイには東南アジア各国からの留学生や研究者がいることなどから、タイ向けの予算が組まれることへの希望が述べられたほか、過去に拠点大学交流事業が実施されていた工学分野が今は手薄になっているのではないかと、といった感想が伝えられました。

今回の理事会は、総会開催前の 1 月に開催の予定です。

<http://jsps-th.org/?p=1716>

出席者：

1. Dr. Busaba Yongsmith, President, JAFT
2. Dr. Boonchai Techaumnat, Secretariat, JAFT
3. Dr. Malee Uabharadorn, Treasurer, JAFT
4. Dr. Somkiat Supadech, Registrar, JAFT
5. Dr. Sunee Mallikamarl, Committee, JAFT
6. Dr. Songsri Kulpreecha, Committee, JAFT
7. Dr. Wataru Takeuchi, Director, JSPS Bangkok Office

左から 7, 3, 1, 6, 5, 4, 2



JAFT のロゴ



■ インドネシア出張 SATREPS セミナーで事業紹介を実施 ■

2011年9月21日（水）から23日（金）まで、センター長および副センター長がインドネシア・パランカラヤへ出張しました。目的は9月22-24日に Aquarius Hotel で開催される第3回国際ワークショップ「Wild Fire on Carbon Management in Peat-Forest in Indonesia」に参加し、当センターの業務紹介を行うことです。

同ワークショップは JST-JICA（科学技術振興機構・国際協力機構）の枠組みである SATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協力事業 Science and Technology Research

Partnership for Sustainable Development）で北海道大学が実施する「インドネシアの泥炭・森林における火災と炭素管理」課題の一環として開催されるものです。

パランカラヤはボルネオ島のインドネシア領いわゆるカリマンタンの主要都市のひとつで、今回の会場の近くには、北海道大学の協定校であり当プロジェクトのパートナーの一つでもあるパランカラヤ大学も設置されています。

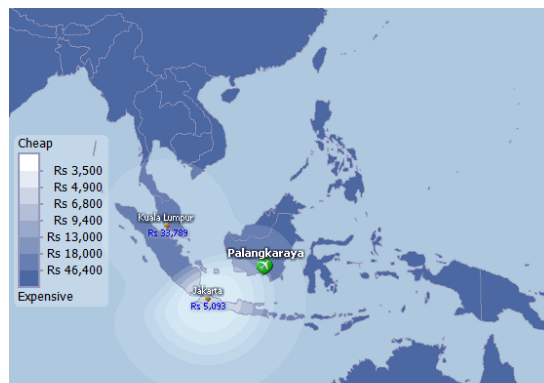
会場には上記課題の多くの関係者が集まっており、その中でセンター長が簡単なセンター紹介を行いました。用意しておいたブローチャー200部はすべて参加者の手に渡り、若干の不足を詫びることになるほどです。なお、センター長はプロジェクト関係者としても会議に参加し、研究発表を行っております。

ワークショップの後は、パランカラヤ大学構内を会場としてレセプションが開催されました。開会のあいさつをされたのは同大学の Vice Rector for Academic Affairs である Prof. Dr. Kumpiady Widen 副学長で、当センターでは早速、ご挨拶とセンター紹介を行いました。

SATREPS は JST-JICA の枠組みであり JSPS とは直接の関係はありません。しかしながら、双方とも日



センター長と Prof. Dr. Kumpiady Widen 副学長



パランカラヤの位置。ジャカルタとは別の島です。



本のファンディング・システムの一部であることは間違いなく、相手国に対し我が国の複層的なファンディング・システムを印象付ける恰好の機会になったものと評価しております。

当センターとしては今後とも、我が国の科学技術政策の中で住み分けと協働を見極めながら、東南アジア地域での JSPS 広報活動を続けていきたいと思っています。

<http://jsps-th.org/?p=1774>

学生へのタブレットコンピューター支給に対する学識経験者の反対意見

与党タイ貢献党が政権公約である子供たちへのタブレットコンピューター配布を行うことに、学識経験者が反対の声を上げている。一方、タイ貢献等の教育アドバイザーである Pavich Thongroj 氏は、ネットブックかノートブック型 PC の配布に向けて準備を進めているという。2012 年度以内に 80 万人の小学生にタブレット型コンピューターを授与することから始めていく。必要となる予算は 40 億バーツだが、中学生以上となるとより高性能のものを求めることになる。

学識経験者の中には、多くの生徒が計算のような基本的な能力もない中、学習意欲を高めるような e-book やソフトもないままにタブレットを配布するだけでは何の意味もない、との声がある。道具ではなく、生徒の学習自体に注意を払うべきで、たとえば磁石になっている黒板を購入できるよう各校に 2 万から 3 万バーツを与えれば、書くこと以外の多くのことが可能になり、生徒の学習促進になるという。

また、タイ貢献党の政策を「諸刃の剣」とたとえる向きもある。タブレット配布により、子供たちがゲーム漬けになったり一人で過ごす時間が増え、体力的・感情的な成長の妨げになるという。子供たちの大半はコンピューターをゲームに用いており、学習に用いているのは 15 パーセントにすぎないという研究結果もある。ゲーム中毒は落第の原因になるとの研究結果もある。

(Nation 紙、7 月 11 日)

ASEAN 発 障害者を対象とした初のバーチャル修士号プログラム

国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) の算定によって世界最大規模の障害者の集まりとされている「障害者公共政策研究所 (IDPP: The Institute on Disability and

Public Policy)」により、アセアン域内から選抜されたメンバーがタイのバンコクに 2 週間滞在し、7 月 18 日設立集会を行う予定。

マヒドン大学とアジア太平洋障害者センター (Asia-Pacific Development Center on Disability) が共同で、視覚障害者、聴覚障害者、運動障害者といった学生たちへの滞在場所を提供し、期間中は、IDPP の各国教員よりアセアンの活動、文化横断的コミュニケーション、研究手法、国連障害者の権利条約についての講義を行う。

IDPP 所長でアメリカン大学国際政策研究所准教授、また COTELCO (Center for Research on Collaboratories and Technology Enhanced Learning Communities) 所長でもある Dr. Derrick L. Cogburn は、IDPP は障害者の社会参加に向けた取り組みであり、さらなる高等教育への道を開くものであるという。

IDPP の目的はサイバーインフラストラクチャを介して地理的な境界やタイムゾーンを越えることで、教員が、同期と非同期の両方のアプローチを使用して完全にオンラインで学生を教えることを可能にすることである。公共・民間・NGO の各セクターにおいて国際障害者政策のリーダーを輩出していくことが目標となる。

(Nation 紙 7 月 14 日)

教育に求める声

Suan Dusit によるアンケートにより、人々が新たな教育大臣に対して、精錬実直で勤勉な人間であることと同時に、教育改革の継続と、学校教育への平等なアクセスの保障を求めていることが明らかになった。

教師、学生、一般市民 1,674 人に対するインタビューでは、全体の 24 パーセントが国内の学術レベル向上が最も緊急な課題であると回答している。この他に、23 パーセントが教員教育、専門家教育に 21 パーセント、教育改革政策の明示が 20 パーセントとなっている。

大臣に求める資質としては、精錬実直で勤勉であることが 25 パーセント、省内を把握できるだけ教育問題に精通していることが 24 パーセント、新しいアイデアと能力を持っていることが 20.5 パーセントとなっている。政策面では、学校教育への平等なアクセスを求める声が 26 パーセント、教育改革の継続が 24 パーセント、教員の質の向上が 17 パーセントとなっている。

(Nation 紙、7 月 15 日)

タイ貢献党の政策による大卒者の就職難問題

タイ開発研究所 (TDRI: Thailand Development Research Institute) の研究によると、与党タイ貢献党の、大学卒業者の月給を 15,000 バーツに引き上げる政策によって国内の人材構造に問題が生じ、卒業生の多くが職に就けなくなることが明らかになった。TDRI 労働者開発部の部長である Dr Yongyuth Chalamwong によれば、民間部門のうち大学卒業者を必要としているのは 5 パーセントのみであり、約 1 万人の卒業生が職に就けない計算になるという。

(Nation 紙、7 月 28 日)

インラック新首相の誕生

インラック・チナワット氏 (Yingluck Shinawatra) が正式にタイ王国初の女性首相に就任。5 日にタイ国会下院により選出され、8 日プミポン国王の承認を得た。世界的に見ても、女性首相としては最年少記録となる。

44 歳のインラック氏は元首相のタクシン氏の末の妹。全国選挙での大勝後 49 日にして首相に就任した。

(Nation 紙 8 月 8 日)

学生ローン改革

教育大臣 Woravat Auapinyakul により、学生ローンを就職見通しに付随するものとする改革案が示された。政府としては債務の焦げ付きを防ぐ狙い。すでに高等教育委員会に法律の草案作りを依頼しており、2012 年度始業に間に合わせたい考え。現在、16 万人の学生が債務不履行に陥っており、連絡の取れない借入学生は 50 万人にのぼっている。不返済額は 70 億バーツに相当。

新たな法案では、借入者の就職見通しを条件づけ、就職後に毎月の給与から 16,000 バーツを返済する。利子やインフレコストはつかない。就職への見通しが高い専攻学生ほどローンへの優先度が高くなる。

大臣によると、多くの学生が返済を拒んでおり、その原因は新卒者の就職難である。貸出側としても借入者の就職見通しに注意を払うことがなかったという。就職できないために返済できない学生に対しては支払い猶予と職業訓練の機会が与えられることになる。

元々、学生ローンは低収入家族を対象に制度が開始され、1 パーセントの利子とともに、卒業から 2 年以内の返済を求められた。新法案では、低収入家族だけではなく大家族の中間層も対象となる。1996 年に開始されて以来、これまで 373 万人に対して 3,570 億バーツが貸し出された。今年 6 月 30 日時点で、229 万人 385 億 3 千万バーツが支払期限となり、このうち、77 パーセントにあたる 177 万人により 59.41 パーセントにあたる 228 億 9 千万バーツが返済された。

低収入家族出身者の学生が多い

Phranakhon Rajabhat 大学としては、就職・収入見通しがローン貸付に連動する新案

(ICL: Income Contingent Loan) に賛同を示している。卒業のための単位取得ではなく、卒業後の就職に学生の意識を向けさせることになることを期待。同大学としては、2015 年に本格的な開始を迎える予定の ASEAN で重要となる専攻に明るい就職展望を見出しており、工学、環境、健康、財務、マーケティング、文化ツーリズムが特に重要と考えている。

(Bangkok Post 紙 8月22日)

インラック首相による施政方針演説

8月23日インラック・チナワット (Yingluck Shinawatra) 首相により、連立政権の政権方針演説が国会で行われた。タイ貢献党主導により以下8つの政策を実施していく旨を表明。(1)緊急政策の初年度の実施、(2)国家安全保障、(3)経済政策、(4)社会問題及び生活の質向上、(5)天然資源及び環境、(6)科学技術、研究開発、(7)外交及び国際経済、(8)グッド・ガバナンス

これに対して、野党民主党のリーダーで前首相であるアピシット氏は憲法改正は緊急課題には当たらないという考えを表明。民間部門による調査では回答のうち20パーセントが改正に賛成の一方、20パーセントが反対であるという。また、国を分断する恐れのある「赤シャツ村」に対する政府支援に対しても反対を表明した。

Chalerm Yubamrung 副首相は、憲法改正は元首相であるタクシン氏の支援を意図するだけのうわべだけのものではないと語った。2007年に改正された現憲章は2006年9月19日のクーデターの結果であり、その改正は必須であるという。

(Bangkok Post 紙 8月24日)

新大臣 教育、科学技術の顔ぶれ

教育大臣

ウォラワット・ウアアピンヤクン

カセサート大学工学部卒。経営大学院 (NIDA) で経営修士号。東北県の市長を経て、タイ国民党 (すでに解党) に入党。その後、タイ愛国党 (同) に移籍。文化相などを歴任。51歳。

教育副大臣

ブンルン・シタレト

マハサラカム教育大学卒。副教育相を務め

たこともある有力議員である夫が死亡したことから代理出馬して当選。タクシン元首相と親交が深く、当初、下院議長候補だったが、本人自ら「閣僚の方がいい」と希望。67歳。

スラポン・インアムポンウィライ

タマサート大学で行政修士号。バンコクに隣接するパトゥンタニ県の名家出身であり、富豪。最初は候補にも入っていなかったが、タクシン元首相と親交が深いことから飛び込みで入閣。53歳。

科学技術大臣

プロトプラソブ・スラサワディ

タイ貢献党副党首。漁業局長、森林局長、科学技術環境事務次官など歴任。市民の力党 (すでに解党) 政権では科学技術環境相補佐官を務める。適材適所からすれば天然資源環境相に就任するものとみられていたが、なぜ直前に変更。66歳。

科学技術副大臣

タニット・ティアントン

ラチャパット大学卒。ブラパ大学で教育政策修士号。東北部サケオ県の商工会議所会頭などを経て政界進出。ベテラン政治家サノ・ティアントンの一族。42歳。

チュチャーット・ハンサワット

米カリフォルニア州立大学ロングビーチ校工学部卒。内相顧問、保健相秘書官などを歴任。中部議員枠で入閣。65歳。

(バンコク週報紙 8月29日 - 9月4日)

日本の国立がん研究センターが初の学術交流協定締結 タイと

8月11日、在タイ日本大使館にて国立がん研究センター、順天堂大学、マヒドン大学付属ラマティボディー病院が学術交流協定を締結。

順天堂大学とマヒドン大学付属ラマティボディー病院が今年3月30日に調印した学術交流に関する覚書に国立がん研究センターが

加わった形。国立がん研究センターとしては日本内外を含めて学術交流協定を締結するのは初めて。

今後、マヒドン大学付属病院の医学生・医師が順天堂大学に留学し、このうち希望する者が国立がん研究センターで研修・実習を行う。国立がん研究センターでは従来、研究性を受入れて修了証を発行してきたが、今後は順天堂大学が修士号・博士号を認定することになるため、研修希望者の増加が見込まれる。

(バンコク週報紙 8月22-28日)

大学への貿易相手の研究指示

8月30日に高官が明かしたところによれば、高等教育委員会が、ウォラワット教育大臣による、タイの教育機関の競争力強化を目指す「一大学、一国」政策の実施に向けて準備を進めているという。

同委員会事務局長 Dr Sumet Yaemnoonによると、ウォラワット大臣は各大学に対して、政府資金のプロジェクトの一環として、一定の国の研究をするように指示した。特に現在または今度ASEAN内で重要なパートナーになる国が望ましいという。そこで同委員会では2012年度会計によるプロジェクトの実施を目指している。

一部の大学ではすでにそういった調査研究をしてはいるが、学術目的であり商業目的ではない。しかし、ウォラワット大臣は将来戦略の策定のために貿易・経済状況の調査を期待しており、今後、議論と調整が求められることになる。

(Nation 紙 8月31日)

明星大学 タイの高校・大学と提携へ

8月22-27日、明星大学の小川哲生 学長、田中宏昌 国際教育センター長がタイ国内の教育機関を視察。日本の学生に多様な文化を提示し、学内の雰囲気を変えていくことを目

的にタイ人留学生の獲得を目指すもの。日本語及び日本の物価高という課題に対して、視察先の学校において以下の対応を提案。同大学が雇用する日本語教師をタイに派遣し徹底指導。奨学金提供のほか、大学事務の手伝いをする事で日本人学生の2倍に当たる3-5万円の勤労奨学金を支給。年間に3-5名の学生を受け入れたい考え。

(バンコク週報紙 8月29日 - 9月4日)

ラオス・タイ間の学術協定

9月8日、ラオス電信電話研究所(Institute of Posts and Telecommunications of Laos)とタイのキングモンクット工科大学トンブリー校(Kingmongkut's University of Technology Thonburi)が協定を締結。コンピューターテクノロジー、コンピューターグラフィックス、教育、メディアなどを含む、ラオスで手薄な分野についてトレーニングを実施する。修了後はキングモンクット工科大学より証明書が授与される。協定期間は5年。

(Vientiane Times 9月12日)

入学賄賂の公式化

9月12日、ウォラワット教育大臣(Woravat Au-apinyakul)は、前政権による賄賂の禁止が実質的に機能していないとして、改めて、入学に際しての「お茶代」をオープンにする意図を表明した。公式に記録に残すことで、一部の個人の利益ではなく学校全体の収益とすることを意図している。「裕福な家庭がその子息を学ばせる学校の発展・改善に寄与することを妨げるべきではない」という。お茶代の領収書が監督官庁に提示できるよう保存されることに向けての法制化について、今後、基礎教育委員会や関係諸機関と議論を進めていく。

Suankularb Wittayalai 学校 Rangsit 校舎の

Suparwadee 校長によれば、それは「賄賂」ではなく「寄付」であり、その利益は生徒に還元されている。選抜試験による入学者のみで定数が埋まるわけではないので不利益は生じない。ただし、厳格な監査の導入が必要であるという。

前政権の教育大臣 Chinnaworn 氏や野党民主党の Kanok 影の教育大臣は、ウォラワット現大臣の政策が実現すれば、裕福な家庭とそうでない家庭の子ども教育格差は広がり、与党タイ貢献党の政権公約である貧富の格差の解消に反することになると批判している。

(Bangkok Post 紙 9 月 13 日)

偽物の教育 現役大学教員からの報告

ウォラワット教育大臣 (Woravat Au-apinyakul) による賄賂の公式化議論を受けて、現役私立大学教員からの報告。大学教員に対しても、一定の学生の単位の授与について大学側から圧力がかかっているという。

(Nation 紙 9 月 20 日)

物流計画についての国家研究プロジェクト

ASEAN 経済圏成立の文脈の一つとして、交通・物流に関する一連の研究プロジェクトが今後 12 ヶ月間に立ち上げられる。合計 4 千万バーツに相当する最初の 2 件はタイ学術研究会議 (NRCT) とタイ研究基金 (TRF) により支援されることになっており、11 月中に調印される見込み。合計 13 の研究課題は、インフラ管理、サプライチェーンの再設計、メタ分析の大きな 3 つのシリーズに分けられる。

最初のシリーズを担当するのは Thailand Development Research Institute の物流部門研究部長 Narong Pomlaktong 氏で、物流関係の民間企業ならいに政府機関にとっても価値ある研究になると胸を張る。企業にとっては、今後 ASEAN 内での戦略策定に向けて重

要な情報を得られることになる。

第 2 のシリーズはチェンマイ大学の財政計画担当 Apichat Sopadang 准教授が担当。シミュレーションを用いて、特定の産業の ASEAN 域内での生き残り戦略を予測する。

「もはやタイ国内だけの段階ではない。

ASEAN10 ヶ国すべてだ」と Apichat 准教授はいう。タイ投資委員会では、同研究結果にもとづいて、国内投資家ら海外投資への戦略転換を行う予定。

第 3 のシリーズはタマサート大学ビジネススクールの国際ビジネス物流研究科 Dr Ruth Banomyong 准教授が担当する。第 1 と第 2 シリーズの研究成果をまとめ、ASEAN 域内での物流に関するタイの競争力を分析する。その結果は政府のサプライチェーン戦略策定にいかされるとのこと。

(Nation 紙 9 月 25 日)

7月

- 4 日 (月) 筑波大学より係長 3 名 来訪
- 7 日 (木) 大阪大学 RCC-ERI より卯田事務職員 来訪
- 8 日 (金) マヒドン大学を表敬訪問
- 12 日 (火) 理研シンガポール事務所より柿原長 来訪
- 13 日 (水) BITEC にて MOST 主催の科学技術展説明会に出席
- 〃 萩原 JASSO タイ事務所長と移転についての協議
- 21 日 (木) タマサート大学にて事業紹介セミナーを実施
- 22 日 (金) 東京大学東方文化研究所より羽田所長 来訪
- 〃 東京農工大学 河井教授、鈴木副チームリーダー、Asia SEED 竹本コンサルタント 来訪
- 28 日 (木) JASSO タイ事務所にて移転についての協議
- 〃 東京大学生産技術研究所より川崎准教授 来訪
- 29 日 (金) マヒドン大学にて事業紹介セミナーを実施
- 〃 タイ王国全国大学工学系研究科長会議にて事業紹介 (於 エメラルドホテル)
- 30 日 (土) Bangkok Convention Center にて阪神地区 4 大学合同留学フェアを視察

8月

- 4 日 (木) BITEC にて科学技術展の最終打合せ
- 5 日 (金) BITEC にて科学技術展のブース設置
- 9 日 (火) BITEC にて科学技術展の開会式に参加
- 16 日 (火) 大分大学より山岡教授、城戸博士 来訪
- 17 日 (水) 大分大学より川本教授、城戸博士 来訪
- 19 日 (金) IMPACT にてタイ JSPS 同窓会主催セミナーに参加
- 26 日 (金) Bangkok Convention Center にて ACCAS (Asian Conference on Computer-Aided Surgery) セミナーに参加
- 27 日 (土) Bangkok Convention Center にて JSPS-NRCT Seminar at Science Expo 2011 を開催

9月

- 5 日 (月) JASSO より樫尾理事、吉野次長 来訪
- 6 日 (火) RESTEC より本澤博士 来訪
- 8 日 (木) 大阪大学より仁平教授 来訪
- 9 日 (金) 在タイ日本大使館にて第 13 回科学技術連絡会 参加
- 11 日 (日) ラオス出張 (～13 日) JAXA プロジェクト会合で事業紹介
- 14 日 (水) 京都大学東南アジア研究所バンコク連絡事務所より富田助教、園部助教 来訪
- 15 日 (木) 第 6 回タイ JSPS 同窓会理事会 開催
- 21 日 (金) インドネシア出張 (～23 日) SATREPS セミナーで事業紹介



カイさんのタイご案内



生まれて初めてチェンマイの伝統料理「カントーク(Kan Toke)」を食べました。カントークは、伝統的な王室スタイルの食事とタイ・ダンスがセットになったものです。カンは小鉢、トークは丸い食台のことです。

- ・しょうが、ピーナッツ、タマリンド入り「ランナ」スタイルのポークカレー
- ・唐辛子、トマト、豚ひき肉のディップ
- ・若い唐辛子のグリル・ペースト
- ・とりの唐揚げ
- ・野菜炒め
- ・チキン・スープ
- ・豚の皮のカリカリ揚げ
- ・蒸し野菜
- ・揚げバナナ
- ・もち米、タイ米
- ・トロピカル・フルーツ



タイ人にとっても、辛いタイ料理が苦手な外国人にとってもとてもおいしいと思います。

チェンマイの「カントーク・パレス」というお店では、カントーク・ディナーと一緒にいろいろな種類のタイ・ダンスが披露されます。私が一番好きなのは、クロン・サブ・チャイ(Klong Sabud Chai)という踊りで、これは古代、王や戦士が勝利を宣言するのに踊られました。体とバチを使う独特な踊りです。太鼓のリズムを聞いていると、とてもハイになります。

もしまたチェンマイに行く機会があれば、絶対にランタン・フェスティバル「イー・ペン(Yi Peng)」を見たいです。
(注: 夜空に提灯を放つお祭りです。気球と同じ仕組みで舞い上がっていく無数の灯りは幻想的の一言です)



副センター長註:

カイさんは、我がセンターのタイ人スタッフです。これまでにそのマジックトークでいくつもの難局を乗り越えてきた頼もしい人で、センター長ともども頭が上がりません。

タイ人の目線でのタイ紹介として、今回から彼女に筆をとってもらうことになりました。最初の紹介はタイ北部の古都チェンマイ。旅行大好きな彼女らしい選択ですね。ランナとは過去にチェンマイに首都を構えた王朝です。

次回以降もお楽しみに。

Map of JSPS Bangkok office

Please show this document to a taxi driver

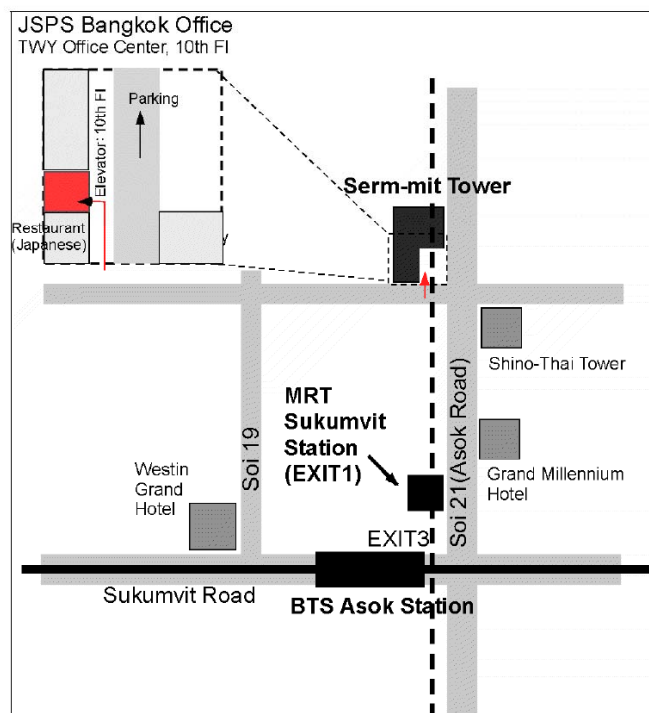
In English:

Please go to JSPS Bangkok office
Serm-Mit Tower at Sukhumvit Soi 21 (Asok)

In Thai:

เดินทางมาที่ เจเอสพีเอส สำนักงานกรุงเทพ

มาส่งที่อาคารเสริมมิตร ซอยสุขุมวิท 21 (อโศก)



Bangkok office

Japan Society for the Promotion of Science (JSPS)

113 TWY office center, 10F, Serm-mit Tower

159 Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110 Thailand

Tel: 02-661-6453

日本学術振興会バンコク研究連絡センター / JSPS Bangkok Office

113 TWY Office Center、10th Fl. Serm-mit Tower

159 Sukumvit Soi 21、Bangkok 10110

Tel: +66-2-661-6453 Fax: +66-2-661-6454